

魅力の詰まったキトラ古墳の四神たち - 白虎 -

キトラ古墳壁画は、2019年7月23日に国宝に指定されました。

青龍・朱雀・白虎・玄武の四神や十二支の図像には、それぞれの魅力が詰まっています。墨線の本一本や筆の運び方など、細部までじっくり観察すると新たな発見があります。今回は、四神のうち、西壁に描かれた白虎の魅力に迫ります。

白虎の魅力 - 耳 -

白虎の魅力の一つ、それは耳にあります。

白虎の小さな耳は、よく見ると単に丸いだけでなく、複数の線が集まって毛が表現され、まるで小さな筆先のように描かれています。

キトラ古墳は7世紀末から8世紀初頭に造営されましたが、当時のユニークな表現を垣間見ることができます。

キトラ古墳壁画保存管理施設では、年に4回、四神の季節にあわせて、壁画の公開をおこなっています。今年も9月21日から10月20日まで、白虎と天文図を公開し、9,930人が参加しました。多くの方が白虎の耳を楽しまれたと思います。

(埋蔵文化財センター 吉田 万智
飛鳥資料館 荻山 琴美)





実物の約 1.5 倍